

戦前、旧制松江高校の教壇に立ったドイツ人教師フリッツ・カルシュの足跡をたどり、その生涯を描いた著書「湖畔の夕映え」が出版された。著したのは東京医科歯科大学教授の若松秀俊さん(58)。松江とは縁も

ゆかりもない若松さんは、カルシュの遺族と偶然出会ったことから、3年を費やし出版にこぎ着けた。家族や教え子を訪ね、資料を集める丹念な取材で「忘れられた偉人」の人間像を再び浮かび上がらせた。

旧制松江高校で15年間 教鞭執ったドイツ人教師 フリッツ・カルシュ

さんいん—東京 オンライイン

松江での足跡たどり

偉大な業績に再び光



情報は得られず、自身の活動は急速に進展。若松 記録していた。若松さん さまざまな情報が集まった。研究も多忙を極めたこと さんも「何かに導かれる は、その名前を頼りに松 同窓生を中心に「カルシ から、調査はぐん挫した。 よった」を振り返る。 江高校五十九期の卒業生 ュ先生を顕彰する会」も ところが、米国に住む 松江で生まれたメヒテ と出会う。中でも九期ク 結成された。 カルシュの長女メヒテル トさんは、カルシュの ラス総代を務めた白石磯 若松さんは資料収集や トさんと連絡が取れた二 教え子と今でも親交があ さん兵庫県芦屋市在住) 面会のため、夜行バスで 〇〇〇年四月から、調査 り、数人の名前と住所を の献身的な協力で、さま 松江や関西を訪ねた。米

若松 東京医科歯科大学教授が3年かけ出版

「松のの人たちにカルシュ先生の功績をあらためて知ってもらいたい」と話す若松秀俊さん(東京・お茶の水、東京医科歯科大)

国でメヒテルさんと の面会も実現。メヒテル さんの家には、カルシュ の執筆した原稿や、松江 の風景を撮影した数百点 の写真、数十点のパステ ル画が残っていた。 調査活動を通じて若松

さんは、カルシュの存在 が松江の人に忘れられて いることを実感。カルシ ュの「復権」を後押しし たいという思いは強くな るばかりだった。 松江市長谷町には、カ

フリッツ・カルシュ ツ大使館で副武官などを 一八九三―一九七一年。 務め、ドイツに帰国した。 ドイツのブラウゼヴィツ 在日中は、西洋哲学と仏 ツ生まれ、マールブルグ 教などの東洋思想との融 合を試みるなど哲学者と 大学、哲学博士号を取得 し、一九二五年に旧制松 江高校へ着任。三九年ま ある。六八年に同校同窓 会で教壇に立った。四〇年 会の招きで松江を再訪し ている。 から四七年まで在日ドイ

ルシュがかつて住んでい た家が今も残っている。 その家を「カルシュ氏が 集めた資料などを展示す る施設として整備してほ